

事務事業評価表（公共施設）

1次評価日（主幹等） 26年 3月 31日

2次評価日（課長等） 26年 月 日

1 事業名	イルフプラザアミューズメント施設管理事業			コード	21203	
2 担当部課	部等	経済部	課等	商業観光課	作成者	佐藤 嘉泰
3 事業概要	目的体系	基本目標	魅力と活力にあふれる、にぎわいのあるまち			
		政策	産業の振興	施策	商業の振興	
		予算科目	アミューズメント施設事業費	業務委託	なし（直営）	
		実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	なし	
		設置条例	岡谷市中央町アミューズメント施設条例			

●事業の内容（D0）

4 施設の概要・設置目的

*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）

施設の概要 （簡潔に）	アミューズメント施設、会議室の管理運営。	
目的	対象者	施設利用者
	意図	施設利用者に安全・快適な利用環境を提供するため、施設の適切な維持管理を行う。

5 施設の管理運営状況

指定管理者		25年度指定管理料	円
施設における 通常業務	当該施設は、岡谷市含む5名の所有者が区分所有する施設。管理組合を設置し施設の管理を行った。共有部分にかかる管理経費は、区分所有率によって負担し共益費負担金として管理組合へ支出している。建物内にあるミーティングルームを利用者が快適に利用できるように管理運営する。		
事業の実施内容	(25年度に施設で行った運営事業・自主事業など) アミューズメント施設内テナントへの使用許可。 ミーティングルームの受付及び維持管理。		
前年度の課題 への対応	なし		

6 施設の利用状況

*②・③はどちらかの欄に記入

区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
① 施設稼働率	26.6%	29.5%	23.2%	
年間開設日数（日）	366	365	365	365
1日の開設時間（時間）	16	16	16	16
年間利用可能時間（時間）	5,856	5,840	5,840	5,840
年間利用実績（時間）	1,556	1,724	1,353	
② 年間利用者数（人）	7,336	9,046	8,858	9,000
有料利用者数	6,411	7,925	7,728	8,000
無料利用者数	0	0	0	0
減免措置者数	925	1,121	1,130	1,000
③ 年間利用件数（件）	0	0	0	0
有料利用件数				
無料利用件数				
減免措置件数				
④ 1日あたり利用者数、件数	20.0	24.8	24.3	24.7
⑤ 施設利用状況の説明	ミーティングルームを利用した個人又は団体数			

7 コストの推移

* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
① 直接事業費	8,205,536	7,836,776	8,180,558	7,969,000
経常経費	8,205,536	7,836,776	8,180,558	7,969,000
臨時的経費	0	0	0	0
* 臨時的経費の説明				
区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
② 人件費	3,280,000	3,280,000	3,280,000	3,280,000
正規職員の人数(人)	0.41	0.41	0.41	0.41
③ 合計コスト(①+②)	11,485,536	11,116,776	11,460,558	11,249,000
前年度比		96.8%	103.1%	98.2%
財源				
一般財源	4,010,586	3,701,476	4,233,258	3,900,000
内訳				
特定財源	7,474,950	7,415,300	7,227,300	7,349,000
* 特定財源の説明	ポーリング場及び飲食店の行政財産使用料収入のほか、ミーティングルーム使用料。			
④ 施設使用料年間収入額	663,250	552,100	391,300	498,480
⑤ 年間減免措置額	115,050	82,950	104,200	100,000
⑥ 受益者負担割合	9.5%	8.1%	6.1%	7.5%
⑦ 活動一単位あたりコスト	1,566	1,229	1,294	
前年度比		78.5%	105.3%	
⑧ コストに関する補足説明				

●事業の評価(CHECK)

8 妥当性評価

* 妥当性＝行政がこの事業を行う必要性はあるか。

妥当性

高い

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。	1	
② 民間（企業、NPO、市民団体等）へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間（企業、NPO、市民団体等）が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価

* 有効性＝施設の利用状況（項目6／住民の満足度）は向上しているか。

有効性

標準

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、事業の内容に反映している。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ 施設の利用者が増加した。	1日あたり利用者数、件数 前年度比 97.9%	0
⑤ 施設使用料収入が増加した。	施設使用料年間収入額 前年度比 70.9%	0

●改善の内容(ACTION)

10 具体的な課題と改善

課題	(施設の有効活用、施設サービスの向上、利用状況の向上を図る上で、現在課題になっていること)	
	特になし	
改善方法	(上記の課題をふまえて26年度以降に実施する、具体的な改善の内容)	
	特になし	
	改善開始時期	

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による26年度の優先度 *H24年度施策評価表より転記すること	B
13 大規模修繕の予定			
	予定事業費	円	予定時期
内容	特になし		